

# 注目される「教育G.P.」の取り組み

熊本大学薬学部は、「環境マインド」を持った薬剤師や薬学研究者の育成を目指した教育に取り組んでいる。これまでも、研究室配属後の学生や大学院生に対し環境教育を実施してきたが、対象を1〜3年次の学生に広げ、内容を充

## 「環境」面で人材育成

熊本大薬学部

### 対象拡大し新たな試みも

文部科学省が公募した2008年度の「質の高い大学教育推進プログラム」(教育G.P.)に、同大学の「エコファーマ」を担う薬学人育成プログラムが採択されたを受け、昨年11月から取り組みを開始した。

今回、新しく設けた教育体系は1〜3年次の薬学部学生が対象。環境への影響という観点から全ての実習を改善するほか、早期体験学習、生命分析実習、環境衛生薬学実習など既存科目を充実させる。さらに、演

習科目の新設、単位外の自主参加型講演会や交流会の開催など、多彩な教育を展開。環境への意識を早期から植え付ける。

08年度は、野外薬用植物観察会、講演会やワークショップ、水俣病の訪問体験学習、薬害被害者との交流などが進行している。

取り組みが本格化する09年度はこれらに加え、食と農の体験塾、国内外での環境マネジメント体験学習、国立環境研究所でのインターシップ、中央省庁への派

遣学習などを行う計画だ。国内の体験学習では、製薬会社教社に3人1グループで、3グループほどを派遣。各社の環境保全に対する取り組みを調査し、可能であれば体験学習を行ったという。

海外の体験学習としては、6人ほどの学生を英国に派遣し、現地の取り組みを視察調査する予定で、現在プログラムを検討中。発展途上国の現状を把握し必要な支援を知る意味で、ネパールのポカラ大学やラオ

ス日本センターへの派遣なども計画している。

正規授業や自主参加型プログラムを一定の基準以上履修した学生には、卒業時に「エコファーマ」修了認定証が薬学部長から授与される予定だ。

薬学部長を委員長とし学内に設けたエコファーマ推進委員会が、教育体系の計画、実施、改善を担当している。教育G.P.の対象となる10年度まで試行錯誤を重ね、その結果をもとに、11年度からは特に効果のあった取り組みを継続したいという。

熊本大薬学部は、01年に環境ISO14001を取得、環境を意識した取り組みを進めてきた。毒物・劇物など試薬管理、省エネルギー・省資源、廃棄物排出量の削減、環境関連法規の遵守などを徹底し、環境教育も段階的に充実させてきた。

環境問題が世界的に注目を集める中、これまでの経験を生かし、「エコファーマ」を担う薬学人への育成を目指した今回の取り組みに発展させた。

育成した人材には、幅広い役割を期待している。▽医薬品の研究・開発・製造過程での環境汚染の防止▽収率よくクリーンに合成できる方法の開発▽環境負荷を低減する包装や製品形態の開発▽廃棄医薬品や医療廃棄物の管理や適正処理▽排泄物中の医薬品・代謝物による環境汚染の防止▽化

学物質による生体への影響の測定や解析、監視▽安全・安心でストレスの少ない街づくり▽発展途上国への支援——など、様々な場面での活躍を想定している。